

令和3年4月27日

地域産業の担い手育成総合戦略事業
～地域資源を活用した専門的職業人の育成事業～
事業計画書

1 学校番号、学校名

学校番号	28	学校名	岐阜県立大垣桜高等学校
------	----	-----	-------------

2 実施内容

(1) 貴校設置学科(系列)において、地域や地域産業等との関わりについて
(連携実績(企業や大学等)、実施(実習)内容、「ふるさと教育」を踏まえた課題等)

【現状の取組】

(食物科)

- ・岐阜県農政部農業経営課・関ヶ原町役場との連携(関ヶ原町もち米:ふわりもち) JAにしみのとの連携(神戸町小松菜) 地域食材を生かしたレシピ研究・提案
- ・カフェmiraiとのコラボ商品開発「関ヶ原もち米のもっちりカステラ」販売
- ・養老サービスエリア(上り)への地域食材を生かしたレストランメニュー提供
- ・地域食材を生かしたコンクールへの参加
(鮎料理コンテスト、食肉総菜料理コンクールなど)
- ・インターンシップ 3年生5日間(全員) 2年生4日間(希望性)
ホテル、病院、学校給食施設、福祉施設、各種料理専門店、製菓店 など

(服飾デザイン科)

- ・オリジナル開発商品の提案
- ・岐阜県繊維協会と連携し、糸製造、染色、織りの工程など繊維産業を理解
- ・テキスタイルの提案、評価、修正を繰り返し、企画力、提案力を養うとともに、オリジナルテキスタイルの開発・製造
- ・開発した素材をもとに、オリジナル開発商品を提案
- ・(株)艶金との脱酸素経営の染色会社による実践型教育プログラム
- ・脱炭素経営、カーボンニュートラルの理解
- ・「のこり染め」生地を活用した商品提案

(生活デザイン科)

- ・平成30年度、令和元年度「専門高校生地域連携推進事業」指定・実践
- ・大垣市社会福祉協議会との連携による地域高齢者宅へのランチサービスの継続
- ・大垣市子育て支援センターとの連携による乳幼児親子との交流活動
- ・保育・被服・食物分野の基礎的知識や技術の定着と課題解決につながる専門的学習の取組
- ・多世代・異世代交流活動をするSAKURAステーション活動の継続

(福祉科)

- ・県内高齢者入所施設・障がい者施設で3年間を通して53日間介護実習を実施
- ・地元専門学校看護師による医療的ケアの指導
- ・福祉施設及び地域行事におけるボランティア活動
- ・日本赤十字社との連携、青少年赤十字加盟に伴う活動
- ・岐阜県社会福祉協議会との連携、講演会の実施
- ・大垣市社会福祉協議会による認知症サポーター養成講座受講

【現状の取組及びふるさと教育を踏まえた自校の課題】

平成27～29年度「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業」や平成30～令和元年度「専門高校生地域連携推進事業」を実施し、多くの地元企業や大学、専門学校の協力を得て、グローバルな視野や地元に着目したクリエイターの育成に努めた。現在も引き続き、地域と関わりをもちながら、生活産業で活躍できる実践力を身に付けるための取組を継続している。

・本校がある西濃地域や岐阜県全体について深く理解するため、特に1年次に地場産業や特産品などの地域の資源や魅力の探求に関する取組が必要である。

- ・家庭環境の多様化から地元・地域との関わりや社会情勢に興味・関心をもち、地域社会の問題を自分のことととらえ、地域の課題解決を目指す生徒を育てたい。
- ・コミュニケーションが苦手な生徒が増えており、自己肯定感、自己有用感、協働力を高めるため、クラスやグループの活動において、自主性や能動性を身に付け、仲間と共に協力し、リーダー力を養いたい。

※枠の大きさは適宜変更して作成すること

(2) 具体的な実践内容（産学官連携、外部人材・外部施設の活用、他学科連携等）

【育成すべき人材像】

- ・岐阜県に愛着や興味もち、岐阜の魅力を発信できる人材
- ・社会や地域の課題を自分の事ととらえ、協働性をもって、課題を解決することができる人材
- ・専門的職業人として専門的知識や技術をもって、産学官の核となって活動できる人材
- ・SDGsをはじめとする生活、食、福祉に関わる問題を社会の一員として前向きにとらえ、解決しようと考え、行動できる人材
- ・創造力や表現力をもって未来を考えることができる人材

【教育課程上の位置付け（実施科目等）】

- ・各学科、専門科目を中心に位置づける。
- 食物科 調理理論 1年生、2年生、3年生
課題研究 3年生
- 服飾デザイン科 生活産業基礎 1年生
(学校設定科目) ファッションビジネス 2年生
課題研究 3年生
- 生活デザイン科 生活産業基礎 1年生
子どもの発達と保育 2年生
課題研究 3年生
- 福祉科 介護総合演習・介護実習 1年生 2年生 3年生

【「ふるさと教育」を踏まえ、自校における課題や育成すべき人材像を実現するための方策として、地域資源、外部人材、外部施設（施設名・実施内容）等を活用した取組内容】

- ・外部講師を活用した講習会の実施
- ・外部施設との連携
岐阜女子大学：食品実験
保育施設、ホテル、病院、学校給食施設、福祉施設、各種料理専門店、製菓店 各種専門店：体験実習
- ・地域資源 地域食材（関ヶ原のもち米：ふわりもち 神戸町小松菜など）の活用
- ・フィールドワーク現場を知り、本物に触れる。（地元産業、農業、店舗、役場等）

【「他学科連携」（実施校（予定）のみ記載：連携していきたい学科・内容について記載）】

※ただし、当初計画にはなかったが、年度途中で実施した場合は事業報告書に記載すること。

なし（他校との連携については、現在のところ予定なし）

※枠の大きさは適宜変更して作成すること

(3) 評価方法

- ・当該事業の実施前と実施後に生徒を対象にしたアンケート
- ・生徒、教員によるルーブリックによる自己評価
- ・パフォーマンス評価
- ・地域の担い手育成協議委員による評価

※枠の大きさは適宜変更して作成すること

3 地域の担い手育成協議会委員

事業所名等	役職	氏名
地域協学センター	岐阜大学 准教授	大宮 康一
大垣市役所	市民活動部長	杉田 昭子
長良川おんぱく	事務局長	蒲 勇介

4 実施に向けた組織（予定で記載）

	職名	氏名
	校長	安田ゆかり
	教頭	柴田幸美
	教頭	早野宏樹
	教諭（教務主任）	瀬下裕基
主任	教諭（食物科科長）	高橋路子
副主任	教諭	澤田和枝
副主任	教諭（家庭科部長）	郷絵美
副主任	教諭（福祉科科長）	大平真木子
副主任	教諭（服飾デザイン科科長）	古川静枝
	教諭（進路部長）	西村佐英子
	教諭（情報図書部長）	山田孝幸
	教諭（社会科主任）	片野広大
	教諭	河村素子
	教諭	高木ゆか

※副主任及び全体の人数は学校に応じて調整すること